[成果情報名] 新たに品種登録される大果で食味がよい中生の「ビワ長崎 15 号」

[要約] 「ビワ長崎 15 号」は、「長崎早生」に「福原早生」を交雑して育成した中生の系統である。「茂木」よりやや早く成熟し、「茂木」と比べ大果であるとともに、果肉は軟らかく糖度が高く、食味は良好である。

[キーワード] ビワ、新品種、大果、良食味

[担当] 長崎果樹試・育種科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール s26700@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

ビワは摘果・袋掛けや収穫・調製に労力が集中する上に、経済栽培が可能な優良品種が少ないため、生産規模の拡大には熟期の異なる優良品種を育成し、労力分散を図る必要がある。中生品種として、長崎県などの西日本では「茂木」、千葉県では「大房」が栽培されているが、「茂木」は果実の大きさ、「大房」は果実品質、果皮障害などに問題があるため、優良品種の育成が求められている。そこで、大果で食味が優れる中生のビワ新品種の育成を図る。

[成果の内容・特徴]

1．1990 年（平成２年）に「長崎早生」を種子親、「福原早生」を花粉親として得られた交雑実生から選抜した品種である（図１）。

2．樹勢は強く、「茂木」よりも樹は大きい。樹姿はやや直立である。着花性は良好で、１樹当たりの収量も多く豊産性である。がんしゅ病 C グループ菌には罹病性であるが、がんしゅ病 A および B グループ菌に抵抗性で、がんしゅ病の発生は少ない。育成地における熟期は５月下旬で、「茂木」よりやや早く成熟する（表１）。

3．果実は短卵形で、果皮および果肉は橙黄色である。果実重は 60g 以上で「茂木」よりも大果であり、果肉も厚い。果肉は比較的軟らかく、「茂木」に比べて酸含量は同程度であるが糖度が高く、食味良好である。そばかす症および紫斑症が発生することがあるが、果皮障害は概ね少なく、外観良好である（表１、図２、図３）。

[成果の活用面・留意点]

1．「茂木」よりもやや早く収穫できるので、「茂木」主体の経営体においても収穫労力の分散による経営改善が可能である。

2．果皮は橙黄色であるが、「茂木」よりも橙色がやや薄いので、収穫適期を逃さないように注意する。

3．年により樹冠上部や外周部の果実に紫斑症が発生することがあるので、遮光性の高い果実袋を用いるなどの対策が必要である。

[具体的データ]

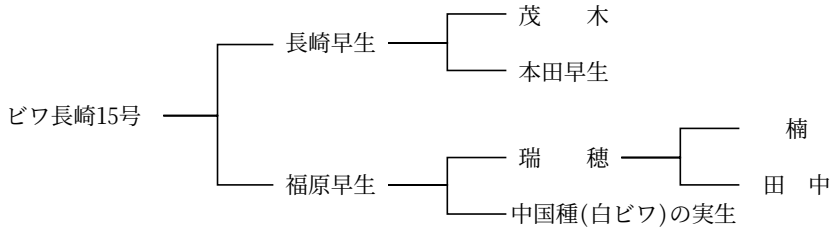

図１　ビワ長崎15号の系統図

表１　「ビワ長崎15号」の栽培特性および果実特性(長崎果樹試、2006～2007年の平均値)

品種･系統	樹勢	幹周	中心枝着花率	収量	がんしゅ病グループ菌			熟期	果形
					A	B	C		
		(cm)	(%)	(kg/樹)				(月.日)	
長崎15号	強	25.1	77	7.9	R	R	S	5.28	短卵
茂木	やや強	17.1	73	2.6	S	S	S	6. 3	長卵

注）樹齢はともに6年生（2007年）。ＲおよびＳはそれぞれ抵抗性および罹病性。

表１　つづき

品種･系統	果実重	果肉硬度	食味	糖度	酸含量	果皮障害				
						へそ黒症	そばかす症	裂果	紫斑症	緑斑症
	(g)			(%)	(g/100ml)					
長崎15号	61.9	やや軟	やや良	12.3	0.20	無	中	無	無～中	無
茂木	44.7	やや硬	中	11.8	0.22	軽～中	軽～中	無	無～中	無

図２　「ビワ長崎 15 号」の結実状況

図３　「ビワ長崎 15 号」の果実

[その他]

研究課題名：ビワの品種
予算区分：国庫（指定試験）
研究期間：1990～2007 年度
研究担当者：稗圃直史、福田伸二、富永由紀子、寺井理治、根角博久、浅田謙介、長門　潤、佐藤義彦、中山久之、中尾　敬